

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1072700378
法人名	株式会社 ヴィラージュ
事業所名	グループホーム 美ら寿の家
所在地	群馬県利根郡昭和村赤城原中原820-1 (電話) 0278-30-9051

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(19 年10 月25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6, 2

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	又は1日(1,000)円			

(4) 利用者の概要 (10 月 25 日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1		名	要介護2	2	名
要介護3	3	名	要介護4	3	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 86, 8 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほたか病院 ほたか医科歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは周囲が広い畑や放牧されている牛が見られるような長閑で静かな環境にある。ホーム全体が明るく、広い空間なのに落ち着ける雰囲気があり、清潔感もある。運営理念に「いつまでも地域の一員として、その人らしい生活を送り、家族として安らぎのある生活が過ごせるように努めます」と掲げてあるように、利用者職員が地域との交流を一緒に積極的に図っている。利用者の楽しみとなる食事の工夫や外出の機会を作りボランティアの慰問の受け入れも行なうなど、生活にメリハリをつけるようにしている。管理者と職員は日々の生活を利用者一人ひとりがいかに自分らしくゆったりと過ごせるかと話し合いながら支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員は救急救命講習を受け改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政から参加者に運営推進会議の目的を説明してもらい、理解と協力が得られている。事業所から現状報告やイベントにも参加依頼をして交流を図っている。納涼祭に参加してもらい感想をもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	系列のホーム全体版のホーム便りを発行し、個別には暮らしぶりを手紙で送っている。また、個別にアルバムを作り、家族に見てもらって日々の様子を報告している。家族の来訪時に何でも話しやすい雰囲気づくりに心がけ、意見や要望を聴き、職員会議で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りやリンゴ狩りに行ったり、収穫祭等の案内状を頂いたり、清掃活動に参加したり、近隣者から野菜を頂く等で利用者と職員は地域に出向き交流を行っている。小学生の職場体験や保育園のイベントに参加したり、園児がホームを訪れたりしている。冬季には近隣者から除雪の協力が得られる等の連携も図られている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての運営理念の見直しを行い、職員で話し合い『いつまでも地域の一員として、その人らしい生活を送り、家族として安らぎのある生活が過ごせるように努めます』と事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼では職員全員が運営理念を唱和し、理念に基づき利用者が地域の一員として日々の生活をどう過ごしたら良いかを共有し、実践に取り組むようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りやリンゴ狩りに出かけたり、収穫祭等の案内状を頂いたり、清掃活動に参加したり、近隣者に野菜を頂く等地域との交流を行なっている。また、小学生の職場体験の受け入れや保育園のイベントに参加したり、園児もホームを訪れている。冬季には近隣者から除雪の協力がある。その他ボランティアの受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。前年度指摘の緊急時の手当てに関しては講習を受講し緊急時に備えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、運営推進会議の目的を行政の担当者から説明をしてもらい、事業所からは現状報告やイベントへの参加依頼をする等し理解と協力を得ている。納涼祭に参加をもらった時には「楽しいねえ～」「笑えた～」と感想をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に定期的に参加をしてもらい、機会あるごとに利用者と共に窓口を訪れたりしている。窓口の方も利用者により対応してくれる等の理解と協力が得られ連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	系列のホーム全体版のホーム便りを家族に送付している。個別にアルバムを作り家族に見てもらったり、日頃の暮らしぶりを手紙で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に日頃の暮らしぶりを報告し、意見や要望を聴き、職員で話し合い運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある場合は、利用者への影響がないように、馴染みの関係づくりの橋渡しを管理者や職員が行うようにして、利用者の混乱を最小限にとどめる様努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修に職員は参加をするようにし、報告の機会をつくり職員間で共有するようにしている。スーパーバイザーである上司の意見やアドバイスを受けながらサービスの質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に持ち、情報交換や研修会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、お茶の時間を共に過ごすことやレクリエーションに参加をもらう等でホームの雰囲気に馴染めるように配慮している。また、体験入居も勧めている。入居してからも家族の協力を得ながら安心して過ごせるように支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護される側・する側の立場ではなく、共に過ごしながら利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望や意見を聞き介護計画に反映をさせるようにしている。職員の気づきや情報を記録し話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月～6ヶ月に1回行っており、状態の変化に応じ随時見直しをしている。	○	介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに安定している利用者の場合でも、月に1回程度は、本人や家族の意向や状況を確認すると共に、職員の気づきや情報を話し合いながら介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や送迎等の支援を本人・家族の希望に応じて柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人・家族の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化したときの対応を話し合っており、状態の変化に伴い家族との話し合いを行いながら意思確認をしながら納得のいく支援をするように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員会議等で、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応をすることを語っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせずに、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、希望する食材や季節感のある物等を取り入れている。利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。職員と一緒に食べながら楽しい食事の雰囲気作りにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴時間を午後(15時30分～)に行い、利用者の希望に沿って入ってもらっている。また、利用者のタイミングに合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に応じて、テーブル拭き、掃除、草むしり、食事準備や片付け、花の水遣りなどをしてもらっている。外食、リンゴ狩り、花見、地域の催し物やドライブ等に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態や希望に応じ、また季節や天候に合わせて散歩したり、庭でお茶をする等して外気に触れるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけず、利用者の自由な暮らしを支援している。止むを得ず職員の手不足時に鍵をする時もあるが、常態化はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と職員が避難誘導訓練(昼間と夜間を交互に)をしている。地域の方には運営推進会議で協力依頼をしており、地域の消防団の協力も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。一日の摂取カロリー(1600Kcal)が摂取できるよう食材や味付けに工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内四ヶ所に天窓から自然光が注がれており、畳と炬燵の間やソファとテーブルセットが設置されている空間もあり、思い思いに過ごしやすい環境になっている。季節の花や観葉植物・置物等がさり気く置かれ、生活感や季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが落ち着ける居室になっており、利用者によっては家財道具一式持ち込まれていて、自宅同様の居室になっている。		